

府大教ニュース

・理事長会見

2021. 9. 29

発行

No. 777

府大教情宣部発行

堺市中区学園町1-1

大阪府立大学内

TEL/FAX 072(257)8992 (直通)

072(252)1161 (内線2751)

e-mail: fudaikyou@leto.eonet.ne.jp

http:// www.fudaikyo.org

府大教役員が大学統合をはじめとする本学の将来に関わる問題について理事長と会見しました

2021年8月30日、大阪府大学教職員組合（以下、府大教）は、大学統合をはじめとする本学の将来に関わる問題などについて、西澤理事長の考えをお聞きするため理事長会見を行いました。会見は、法人から西澤理事長、辰巳砂副理事長、東山理事、川上次長、羽者家部長、川端課長らが出席し、府大教から岩村委員長、楠川副委員長、中村副委員長、小嶋書記長、井手書記次長、上田書記次長が出席して行われました。

会見では、(1)新キャンパスプランでの動線や駐輪場の確保の状況、(2)就業規則変更に関する労働委員会のあっせん案への対応、(3)教職員の業績評価、(4)感染防止対策を含む講義室等の換気確保、(5)新大学に向けた教育研究を支援する組織の統合、(6)新大学広報の組織体制、の6項目について理事長の考えをお聞きしました。

会見の抄録を以下に報告します。

府大教：本日はお忙しいなか、理事長に直接ご意見を伺える場を設けていただき、ありがとうございます。また日頃は両大学の運営と新大学の準備に大変ご尽力いただ

いていることに改めて感謝申し上げます。先週、大学認可の知らせを受けて、教職員としてもほっとしている。半面、開学まで



秒読みに入っていくなかで新大学がどうなるのかという不安を抱えているのも事実。その不安を少しでも解消するような場になることを願っているので、よろしく願います。

(1) 新キャンパスプランでの動線や駐輪場の確保の状況について

府大教：まず学生自治会からの要望について。新キャンパスプランについて、授業間の教室移動、クラブ・サークル活動への移動の動線や各講義棟前の自転車置き場の確保などの検討をお願いしたい、検討結果を随時公開してほしい、学生、教職員からの意見公募の機会の確保をお願いしたいという要望。現時点でのコメントはいただけるか。

東山理事（以下、理事）：今ご意見いただいた項目については引き続き検討してまいります。

府大教：公式な資料として、現状のキャンパスプランがどうなっているかの文章が公開されていると思うが、学生向けの説明が今までなかったのではないか。現状、こう考えているという機会を持っていただければ学生も安心するのではないか。

理事：考えさせてください。

府大教：合わせてその場で学生の意見も拾っていただきたい。

理事：森ノ宮を軸とした今後の話しだと思うが、折を見て。いろいろな意見を伺い作り上げてきたので、ある程度は反映できると思うが、こういうことになっているというのはタイミングをみて申し上げないといけないと思っている。

西澤理事長（以下、理事長）：学長時代に市大は放置自転車が問題になった。救急車が入れないとか物理的な課題が山積していて整理せざるをえないということであった。放置自転車は確認するのが難しく、登録制度を作り、登録を外れて1年以上置いてものを放置自転車とし一定の場所に半年留保し、申し出があればお返しすることにした。申し出がなければ処分するというよ

うな改革がいるような感じがする。その代わり学内の入り口近くに駐輪場を作りできるだけ学内は自転車を使わないというエチケットとして整備した。中百舌鳥は広いから同じようにいかないかもしれないから相談しながらする。放置自転車だけは整理したほうがいいかと思う。個人の持ち物なので一定の規則を決めないといけないが何か活用できないかなど相談しながらになると思う。放置自転車は大変だった。年間で費用もかかり場所を取るだけでももったいない。その代わり新しい駐輪場をきちんと作りルール通りにやろうと、今は守られていると思う。

府大教：市大も府大も過去のノウハウをうまく活用しながら学生の意見も取り入れていただいて今後検討していただきたい。

(2) 就業規則変更に関する労働委員会のあっせん案への対応について

府大教：労働委員会で斡旋案が出たが、開学まで期限が迫っているが、旧府大の教員、開学までに採用された教員の給与については府大の旧給与規程を退職まで使っただけだと確認は取れているが、まだ解決されていないのは、新大学で採用された教員の給与面。今提案いただいているのは旧就業規則から不利益変更を含んでいる。これはまだ採用されていない人なのでなぜ府大の組合が口を出すのかという話もあるが、確かにもともと府大に属していた人は退職まで旧給与規程でとお約束はいただいているが、長い人で40年くらいあり、それが本当に最後まで履行しきれぬのか、旧承継の教員は年がたつにつれてマイノリティーになっていき、マジョリティーは新大学後に採用された人になるので、その給与面について不利益を含んでいるというのは先々、今の組合員にとってもよくないのではないかと個人的には考える。そういうことから今後の府大教との協議内容の見通しについて理事長のお考えをお聞きしたい。

理事長：はじめの挨拶で認可が出たと言われたが、認可に対する審議会での答申が出

たということで、認可書を受領するまでは、認可はまだおりていないということを確認したい。この9月から以降はむしろスタートの時期であると考えている。労使の問題についても非常に大きな問題。労働委員会に示された斡旋案に対しても、現在は協議をしっかりとやっていこうという姿勢。今後引き続き事務折衝、労使協議会等で年内に合意をできるだけもっていきたいと考えている。ただ給与に関しては自分たちで決められることではなく総額が決まっているわけで、それを如何にうまく調整していくかという話なので、お互いに歩み寄る部分があるのではないかと思いつつながらも協議していきたい。

府大教：見方にもよるが、不利益変更はないということをご提案いただける姿勢をお持ちいただいているという解釈でいいか。

理事長：市大と府大は考え方が違う給料水準になっているので、どちらにも不利益がないようにしようというのは、どう調整するかという難しい部分があると思うが、きちんと相談していく。

(3) 教職員の業績評価について

府大教：教職員の業績評価について、市立大学と府立大学での教員、職員の業績を新大学ではどのように統一されるのか。今までは別々の大学だったが、それが一つになるにあたり、どうされるのか。例えば教員の業績評価では、学部・大学院での授業準備、学生発表指導、学生論文指導という教育と、著書、論文、国際会議発表、国内学会発表という研究、さらに国内外での大学との共同研究、企業共同研究、全学および部局での諸々の委員活動、社会貢献、地域貢献など幅広く評価されていくようになるのか、職員の業績評価は今後どのようにしようとしているのか、考えをお伺いしたい。

理事：教員の業績評価については今のところ教員活動の自己点検が評価制度としてあるが、人事評価としての制度は存在していない。国の方針、他大学の状況をふまえて検討していくという状況。情報公開につい

ては、教員活動データベースへの登録をその情報をもとにした教員自身の自己評価点検を行っているということで説明責任を果たすということで重要だと思っているし、法人として評価結果をどのように活用したらいいのかについては今後の課題ということで結論は出ていない。

府大教：具体的には処遇に反映するという点について、まだ見通しを立てていない、反映するとも反映しないとも。

理事長：全体の社会の流れとしては、どこかでやらないといけないということは考えている。

理事：職員は現在試行実施を行っているところ。今年10月まで試行実施させていただき、アンケート調査をしながら検討を進める。アンケート結果をふまえて新しい人事評価制度について今年度内を目途に協議を行っていきたいと考えている。

府大教：新たに設けられている職務限定職員の方の評価についてはいかがか。

羽道家部長（以下、部長）：検討中。

府大教：制度はスタートしているので年度末に評価が出てくるのは当然だが間に合うのか。

部長：間に合わせるようにする。

府大教：今は処遇には反映しないとあるが、例えば教員の職階が上がっていく判断基準が各大学、学部間で違うが、そのあたりの議論はされているか。新大学を作るにあたり学部によっては二つ重なるようなところもあるが、どう整合性していくかみたいなことは考えたりしているのか。

部長：昇任の基準のように、そこまでは議論できていない。

辰巳砂副理事長（以下、副理事長）：今の段階では部局ごとのワーキングがあるので、そういうところでそれぞれが検討している段階。両大学の中でも異なっている状況なので、市大、府大という形よりは部局ごとの特徴を出しているものを全体としてはどうみるのかというところ。

府大教：一つの考え方として完全に部局に任せるといったことか。

副理事長：完全に任せるということではなく、これまで両大学である程度の経緯があるので、今ある両大学の間で二つが一つになるところがあるので、そういうところの検討を今、見守っているような段階。

府大教：教員の昇任基準が明文化されていない、暗黙のルールで、部局で運営されているようなところがあるが、そこをクリアにした方が、若い方にとってははっきりした目標になるのではないかと個人的には思う。そういう動きは考えられるか。

副理事長：おっしゃる通りだと思う。コロナがなければもう少し実質のコンタクトが取れて話し合いも進んだかと思うが、進んでいないのではないかと思う。フランクにやっていかないといけないが、全体の組織が非常に大きいので、特に大きい工学や理学がまずどうなるのかを今やっていただいている。

理事長：部局としてはやりにくくなる可能性もあるので、調整しながらやっていくしかないのかなど。

(4) 感染防止対策を含む講義室等の換気確保について

府大教：コロナ対策について。新学期を控え、対面授業が実施される建物では登校する学生の増加が想定される。直近の報道では百貨店の地下など換気が不十分な空間でのクラスター発生が指摘されているが、講義室、研究室、実験室、廊下などの換気は充分でしょうか。特に古い建物では喚起を窓の開放に依存するような部屋はないか、寒い時期になり施設面での対策はどうお考えか。あるいは追加の対策はお考えか。

理事：今のところ換気については換気扇なり、窓の開放で確保している。今は夏なので虫が入ってくる程度なので網戸を付けた窓の開放で対応しているが、冬になって窓だけでいける部屋はどれくらいあるのか。

川端課長：ある程度は聞いているが、厚労省が言っているが 10 分開けて閉めるとかで十分という話しは聞いているので、そういう対応で可能かなと思っている。施設課

とも話しをしている。

府大教：安全性という意味ではいいと思うが、換気が整備されている部屋を使う教員と、そうではない場合は大変。特に学生は同じ授業料を払っているのに、施設の格差があり、なぜ我々だけとなる。予算の面があるとは思いますが、数の把握も含めできるだけ対応していただきたい。

理事：当然施設はちゃんと管理している。

府大教：社会一般では換気の見安としては CO2 センサーを設置するとなっているが、法人全体で実際お持ちなのか。通常事務室でも年に数回、職場環境測定で CO2 の測定をするが、府立大学でも時々基準値よりも高いというデータが出ることがある。特に今の時期、教室で授業終わりに CO2 センサーで、どれくらいかというのを巡回して測ってみるとか、換気についての指標を持ちたいが、どうお考えか。

副理事長：先生方がご承知のように、今各支援室に CO2 センサーを完備している。全部の教室に固定するというのではなく、それを持ち出していただいて先生方にその教室の CO2 を見てもらうというお願いはしている。大学執行会議でも知らない先生方がおられたので、ぜひ周知してくださいとしているが、徹底しないといけない。全教室に置くということではなく、それを持ち出していただいて、どれくらい開けたらどれくらい下がっていくかというのはドラスティックに見える。基本的には 800ppm、1000 ppm を必ずきるような状況である必要があるので、窓を開けてエアコンを付けておくか、あるいはどこかを開けていただくとしていただいて、毎週のことなので、こうすればこうなるということをまず確認してくださいと、最初をお願いしている。

府大教：ただ一人の教員が持っていくとそこしか測れない。

副理事長：いくつかある。

府大教：測る方と測らない方が極めて差が出てくる。学生にとっては測っていただける先生ならいいが、測っていただけない場合もある。

副理事長：毎回測ってはおられないと思うが、同じ曜日の同じ時間帯に講義されているので、どうかというのを把握していただきたいと思っているが、それが周知されていないということはおっしゃる通りかと思うので、周知したい。取り組みとしては少し開けるだけで差があるので、夏、冬の省エネの対策の時にも、今まではできるだけ省エネしてくださいということだったが、換気が非常に重要なので。窓を開けながらエアコンを付けるということはやむを得ないと、きっちり測定していただきながらと話しているので、それが不十分であればまた注意喚起するようにする。

府大教：換気扇がついている教室については換気をするという通知になっているのか。

副理事長：それは承知していないが、今年の冬も同じような話しがあったので今年特別ということではなく、今年の冬に比べるとデルタ株の話しで感染しやすくなっていることは間違いないので、さらに注意喚起していきたい。

(5) 新大学に向けた教育研究を支援する組織の統合について

府大教：事務組織の統合について。新大学に向けた、教育研究を支援する事務組織の統合について、現在の状況と今後の展望、課題をお聞かせください。

理事：9月1日に4月の前倒しで組織の改編をする。基本的には府大、市大ということでキャンパスごとになっていたのを、相互のコミュニケーションをできるだけ図れるような体制作りをしていきたい。過渡期の時期でもあるので、いろいろな事柄が出てくるとは思うが、基本的には法人として、大学としてコミュニケーションを図りながら、共通した組織を作っていきたいとやっているもので、これからもそういうことを念頭にやっていく。森ノ宮のキャンパスができるということで、どのようにしていくのか、このままでいいのか、新しく何か考えなければいけないのかは課題として出てくるとは思うが、基本的には一つの大学とし

てコミュニケーションをしっかりと図りながら、一つの組織として権限なり責任体制を明確にしていくことも念頭に置きながら進めていきたい。

府大教：もともと二つの大学で同じ役割を果たす課があるということで、課長が二人いたのを「課長」と「担当課長」という切り分けにせざるを得ないが、実質的には同じ権限を持っている。当然そういうことになるのは理解するが、なかなか難しいことが起こるのではないか。その辺を把握していただいて、コミュニケーションが図れるような体制を築かれると。

理事：「課長」と「担当課長」と、そのコミュニケーションをどうしていくのかということだと思う。現場現場で、何かあれば話しをするなり考えていく。基本的な考え方についてはご理解いただきたい。組織の統合でもかなり議論したし、最終的には決まったが、100%みんなが納得しているかといえば、そうではないとどんな組織でも思う。もともと目指していたものが、どう統合して新大学を円滑に進めていくかということなので、そのために一生懸命考えて、もっといいやり方があるとか、やったうえでどうかと言うのは、フィードバックしながら考えないといけない。基本的な考え方はご理解いただきたい。

理事長：組織の問題は非常に難しく、新大学ができたからと言って、三大学が並立する。旧大学の学生は大学の組織という意識があるので、名称が変わったら難しくなるということもあり、急転換ができない。併用するような形で今までと類似するけれど、組織の形は新しい形を作り、責任体制を明確にしながら移行できるようにしておくという形をとらざるを得ないというのが今の形。時間とともに整備されてくると思う。フィードバックにより、みなさんの意見も出てくると思うので。新大学ができていないのに組織は新大学になりこの半年は非常に苦痛のあるところだと理解できる。ゆくゆくは作っておかなければならない。

府大教：難しいのは大変だと思うしコミュ

ニケーションを図るのは当然のことだと思うが、経営されている側から言うと、積極的に人的な交流を図るいくつかの方策はあると思うが、こういう風な方策を考えているというビジョンなどがあればお聞きしたい。職員については交流を多くするとか、互いの配置転換を早めるとか、新大学で新規採用の方は府大、市大という意識がないので、その方を各部署に配置していくという考え方もあるかと思うが。

理事長：旧大学が存在していて、旧大学のカリキュラムのやり方というのは元のままの可能性が高い。それを併存しながらやっていくとしたら、ある程度慣れた人がいないと。今急にはできないと思うが、組織の形は新大学の組織を作っておいて、時間の経過とともにシャッフルできるような形でお互いが事務の能力の交換をしていくというようなことは考えている。これから入ってくる人は新大学に入ってくるから市大も府大も関係ないから、そういう人たちはそういう人たちでやってもらうが、今までの熟練した人たちもうまく順応していけるような形を作っていかなければいけないと思っている。

府大教：国でもデジタル庁ができるとか、組織改革が進んできていて、いわゆるペーパーレス化が進んできていて、公立大学法人大阪の一つ前の公立大学法人大阪府立大学の時代もシステムができた時にペーパーレス化の議論が十分あったが、結局教員のところでは財務処理も紙ベースで書類を出さないと処理できないとかがずっと続いている。大阪府もそういう状況はあるが、社会のあり方も含めて今後の新法人、新大学に向けて組織改革するにあたりペーパーレス化の位置づけは、きちっとされているのか。

理事：電子決裁システムができています。

府大教：できていますが、証拠書類が紙。監査の関係があると説明いただいたことはあるが。

理事：大学のやり方とは外れるかもしれないが、文書を持ち過ぎ。正式文書として残

さないといけない文書と自分の仕事のために残す文書とがあり、それをどんどん集めていくと紙がどんどん増えていく。そこだけ考えると紙ベースで資料を持つとか、両面にしていないとか結構ある。ある程度意識の問題だと思う。それに対し、どういうやり方があるとかいうのはシステムだけの問題でなく文書規程もあるので、これだけ減らさないというのは難しい。

理事長：ペーパーレスは方向としては明らか。かなりやっている。

府大教：キャンパスが複数になり紙ベースだと書類のやり取りがかなり煩雑になるので。

理事：PDFでおとして送るとかいうのはあるのではないかと。

府大教：そういう場合もあるし、紙でくださいという場合もある。

理事：紙でくださいとはどういう場合か。

府大教：購入するときは3通紙で出せとか。成績は全部ペーパーレスになっているが。

府大教：見積もり、請求、納品書。購入依頼書はポータルで入力でき予算の残が計算できていいが、結局最後に出てきたものを紙で印刷する。システム的には完成しているが、なぜか紙を印刷し出さないといけない。

理事：紙印刷が必須になっているわけですね。経理事務で。

府大教：そう。

府大教：財務課へ行くとサイズが違うので、みんなA4に貼り付けて保管されている。それが職員の仕事になっている。

府大教：物理的にファイルに納まるように貼り付ける作業。

府大教：監査があるからと聞いている。

理事：仕組みを変えたほうがいいところは、どんどん変えていくが、変えられない事情もある。

府大教：規定があるのだろう。

理事：監査室に確認する。

府大教：個人の努力で紙を減らすことももちろん大事。組織として今どこに紙をたくさん使っているのか、本当にそれは必要なのか洗い直して見直していくというのも必

要なのではないか。

理事：横断的に紙を減らすとかいうのを号令かけてやれる状況ではないと思う。キャンパスごとに違うかもしれないし、もう少し詳しく調べる。

(6)新大学広報の組織体制について

府大教：現シスの広報委員をしているが、新大学広報に関する重要な決定事項は広報戦略委員会で決められている。大学全体の広報に関わる内容、新大学のロゴやPR動画の作成、開学の式典開催方法などの決定は何も問題ないが、新大学のwebや部局のロゴなど各学部研究科が密接に影響を受ける内容についてもここで決められているのが現状。昨年度までは新大学の部局が関わる広報の組織がなかったのでわかるが、今年度に入って入試運営部会というものができ、そこは入試広報を取り扱うと書かれているので、部局が直接意見を出せる場で検討すべきではないか。なぜかというと、現状広報戦略委員会の決定事項は議事録が新大学広報担当者に送られる。これは各新学部等設置準備委員会の広報関係の一人に送られてくるが、入試運営部会では報告すらされていない。広報戦略委員会の承認さえ得られれば部局の意見を反映する必要はない状況となっているということ。具体的には新大学入試情報サイトで部局の情報を発信しようとしても、現シスは3月の時点で、入試運営部会で情報を掲載することを確認したが、なかなか履行してもらえず数ヶ月催促し、ようやく掲載されたが、他の部局では掲載を断られているような状況。部局が情報を出したいという思いはあるが絶たれている。実際のwebページは紙版の冊子をwebページにただけに留まっている。これは現行の新大学の情報を発信するサイトだが、4月に開学する新大学ホームページに関して現シスから、ロービジョンに対応した色使いに変更してほしいと広報戦略委員会に要望したが、広報戦略委員会では現場の細かいところまで目が届かないと思う。広報課が今からデザイン変更したらス

ケジュール上、間に合わないということで、それを鵜呑みにされた形になっている。ただ部局は広報課とやり取りが細かくあるので、実際は各部局のトップページのメニューだけなのでスケジュール上の問題ではないと認識している。こういう問題を解決するために、またこういう問題が起こっているということは新大学広報の組織のあり方として、ある意味部局に責任を持たせて、部局の裁量権を持たせるような組織体制にいただいた方が、いろいろな意味でうまくいくのではないかと強く思っている。お考えをお示しいただきたい。

理事：広報戦略委員会は広報戦略の担当副理事長を委員長として、メンバーとしては学長予定者、両大学の入試担当副学長など広範囲にわたったメンバーで構成している。全学にまたがっての広報戦略を担当する。新大学の広報についてもブランドイメージ統一のためにwebサイトでもトップページなどを制作管理することとしており、一方で新大学のホームページは部局のみなさんの自発的な運営に委ねるということで、大学総体としては活発な情報発信を目指していく。全学に関わる広報戦略は国内外における評価とか情報発信ということから全体的な目で広報戦略委員会が主導するということはある程度必要かと考えているが、できる限り各部局の意見を取り入れながら取り組んでいきたいと考えている。

府大教：広報課とは会話しているが、広報課としては広報戦略委員会で決まったとなってしまう。

理事：広報戦略委員会にあげるタイミングとして広報課が話しを聞いてくれないということか。

府大教：あげるタイミングというよりは、広報戦略委員会で決まったことだからという感じで、その後に部局が追随していくということ。

理事：その前に意見を聞くこともないのか。

府大教：ない。広報戦略委員会の議事録を送ってくるだけなので。ブランドイメージのために当然ここで決めなければいけない

ことはたくさんあるというのはわかるが、部局に密接に関連する部分の要求が絶たれているので見直していただく方がうまくいくのではないかと考えている。

副理事長：全学に関わる広報については広報戦略委員会で決めているが、部局ごとのところについては、部局だけでやるイベントとかは部局にかなり自由度があるが、全体のなかの話になると、統一的なところという観点でやっていると認識している。

府大教：具体的な問題として、情報発信したいのに断られることがあるという状況だが、個別の問題として解決することも必要だと思う。

副理事長：入試サイトがオープンになるまでは、個別に出していただく分に関してはそういうことはなかったと思う。オープンにするというときに部局のものを出していただく初めからなかった。新大学の認可がおりるかおりないかという状況のなかで、仮称の大阪公立大学というのがある状況で古いところでは出せない。いろいろ要望したが出せなかったというのは、出す場がなかったと認識している。

府大教：新大学のサイトに載せたいという要望だが断られているということ。なぜ断られるかという話し。大きくみると、そういう組織体制で、広報戦略委員会で承認を取っているのだからとなる。現シスは苦労して載せてもらった。

理事：確認する。

府大教：学生自治会のところ。学生からあがってきた直近の話としては、中百舌鳥キャンパスに自転車ゾーンができて、ノー自転車ゾーンがあり自転車が中心部に入れないようになって非常に安全になってきているが、学生がいただいたキャンパスプランでは一番重要となるB3棟隣の自転車置き場のところに建物が立つが、代替の自転車置き場の通知がなく混乱しているという話しをいただいている。キャンパスプラン全体に関わることだが、学生はそういう細かいところが気になるので、順次案内していただきたい。自転車ゾーンができうまく

いってきているところに、変わったことに対してフォローがなく困っていると聞くので、ぜひフォローをしていただきたい。

理事：いつなくなるのか。

府大教：一番学生が利用するところに新棟が建つ。

副理事長：B3棟の前に工学新棟が建つ。実験棟も建つ。中に入られる人たちのための駐輪場はもう計画している。どういうふうに進むかというのをアナウンスできる時点になればアナウンスする。ただ、それぞれの建物の駐輪場というのは当然建物ごとに予定している。

府大教：それを学生に見える形でお願いします。

理事長：新大学開学が迫ってきた。組合員のみなさまをはじめとし、教職員一丸となって前向きにやっていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願いします。

府大教：よろしく申し上げます。ありがとうございました。